

ピアノ アドバイザー



厚地 和之

1954年愛媛県新居浜市生まれ。

宮崎県立富島高校を経て、宇都宮短期大学、洗足学園大学、同専攻科(現大学院)卒業。

ピアノを齋藤美代子、原田吉雄、新井精、井口基成、井口秋子、北川正、村上明美、田淵進、各先生に師事。

またリー・カム・シン ペーターラング、クラウスシルデ、各先生の特別レッスンを受講する。

社団法人全日本ピアノ指導者協会組織運営副委員長、評議員、栃木県支部長、宇都宮マロニエステーション代表。当協会より優秀指導者賞1回、指導者賞29回受賞。

審査員としてピティナピアノコンペティション全国大会、地区本選、栃木県ピアノコンクール、ブルグミュラーコンクールなどの審査を務める。また講座「電子ピアノ活用法」を全国各地で開催し好評を得ている。

演奏についてはピアノソロ、アンサンブル、合唱指揮など幅広く活動している。

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

1. 演奏についての心構え

私たちの演奏している楽曲はおもにクラシック音楽です。そこで大切なこと、それは再現芸術であるということです。作曲家が残してくれた作品をどう現在の私たちが感じて表現していくかが大変重要になっていきます。作曲家が生きてきた時代の背景を知ることや生活を感じてみることも大切です。楽譜の読み方も音符の位置を間違えなく読むことも大切ですが、作曲家自身が書き残したフォルテ、ピアノなどのいろいろな表示記号も大切に読んでください。

2. ピアノを弾く時の姿勢について

人間の体の中で一番強いとされている筋肉は背筋です。人間が直立歩行ができるのも背筋が強いからです。よってピアノを弾く時も其の部分に意識を持ってください。背筋を中心に左右対称に腕や指をかんじて動かしてください。あと大切な部分は足の裏です。足の親指を意識して力を入れて地面を感じると大変安定感が得られます。

試してみてください。



3. 音について

音は空気があるおかげで存在します。空気は細かい粒子からできていてその中にピアノから出された振動が入っていきそれが音になって聞こえます。よって鍵盤の下に音を感じるのではなく、空気中に感じる様にしてください。



4. ホールで演奏する時の注意点

ホールでの演奏は家庭での練習と色々違いがあります。まず使用する楽器。大体のホールではフルコンサートピアノなので、低音と高音の音の鳴りの幅が広く感じます。その辺りを想像して練習する事が大切です。あとよくある失敗は鍵盤の位置がわからなくなってしまう事です。人間の習性として周りの壁から自分の位置がわかる…と言います。自分の慣れた場所は近くに壁があるので、鍵盤の場所がわからなくなってしまう事はありますが、ホールは遠くに壁があるので、位置がわからなくなってしまう事がよくあります。ですので普段の練習の時から気をつけて下さい。あとホールの広さ、高さも想定して練習する事も大切です。特に初めて弾くホールは前もって見学するとか、パンフレットやスマホを使って画像で見ても大切です。

5. コンクール活用法

コンクールは今から 50 年程前から一般的に広まり、今全国で催されているコンクールの数は約 200 と言われます。栃木県内でも様々なコンクールが催されていて、中でもピティナピアノコンペティション、栃木県ピアノコンクール、栃木県学生音楽コンクールなどが主なピアノコンクールです。各コンクールには特徴がありピティナピアノコンペティションはバロック期 クラシック期 ロマン期 近現代期の 4 期から 1 曲ずつ計 4 曲弾きます。栃木県ピアノコンクールはソロ部門とプレ部門があり、ソロ部門の本選はクラシック期の作品を全楽章弾きます。またプレ部門は自由曲を 1 曲弾きます。

栃木県学生音楽コンクールは自由曲 1 曲を弾きます。このようにコンクールによって課題曲が違ってきます。現在のピアノ学習は、コンクールを利用してその課題曲等を中心に進めて行く学習者が多数います。コンクールでは演奏のあと審査委員から講評を頂けます。審査委員は自分の師事をしている先生とは違う方なので、色々な観点からの指摘が大変参考になります。そして今後のピアノ学習におおいに参考になります。ご自分のピアノ学習のレベルに合わせてコンクールを選び挑戦してみてください。

～まとめ～

上記のようなことを日々感じて毎日コツコツ練習しましょう。
生涯教育として音楽と付き合っていきましょう。